

登録コード	A3595493		開講年度	2026			
授業科目	専攻研究					担当教員	若林 剛志
英文授業名	Thesis Research						
単位数	5	講義期間	前期（随時）	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 0 2 2 Aカリ, 2 0 2 1 Aカリ, 2 0 2 0 Aカリ, 2 0 1 9 Aカリ						
	【2022年度以前加付対象】専門的な知識や研究能力を修得している				農業農村の社会・経済に関する知識を習得するとともに、それを応用し、地域内外の課題を発見、解決する能力を修得する		
	【2022年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している				農業農村の社会・経済に関する知識を習得するとともに、それを応用し、地域内外の課題を発見、解決する能力を修得する		
	2 0 2 6 A3 編（24A）, 2 0 2 5 A3 編（23A）, 2 0 2 4 Aカリ, 2 0 2 3 Aカリ						
	【2024年度以前加付対象】専門的知識や研究能力を基礎としての確かな情報を収集・理解し、発信できる能力を修得している。				農業農村の社会・経済に関する知識を習得するとともに、それを応用し、地域内外の課題を発見、解決する能力を修得する		
	【2024年度以前加付対象】地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って様々な課題をとらえ、解決する能力を修得している。				農業農村の社会・経済に関する知識を習得するとともに、それを応用し、地域内外の課題を発見、解決する能力を修得する		
(2)授業で学べる「テーマ」	地域運営、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	県内外における農業・農村の課題に焦点を当てながら、その要因を明らかにし、課題解決方法を検討します。農村調査を重ね、現場の方々とともに議論することで、理論と実態の両面から地域の課題解決を目指します。また、経済理論に基づいた定量的な実証研究による課題解決についても随時取り扱います。						
(5)授業計画	研究テーマを絞り込み、関連する既存研究の内容について発表し、質疑応答を行います。同時に、参加者間で論点を議論しあい、研究手法を学びながら研究計画を作成します。その上で各自のテーマにふさわしい方法で研究を進めていきます。 最後の15分間は授業アンケートに回答するための時間とします。						
(6)自主学習の指針	研究テーマの決定は、学生の主体性を重んじ、できる限り学生の興味関心を尊重します。専門書や研究論文を読み込むとともに、国内外の農林漁業の現場を視察する機会を作り、視野を広げ、知識を深めてください。 卒業論文のプレゼンテーションではパワーポイントを使用しますので、本授業でも積極的に活用してください。						
(7)成績評価の基準	1) 的確なデータ収集とその分析能力、2) 情報の検索・収集能力、3) 論理的な論文取りまとめ能力、4) 問題点や課題の考察能力、5) 的確なプレゼンテーション能力、の5項目についてそれぞれ、本科目の目標達成に照らし、「明らかに不足」、「不足がある」、「適正」、「優れている」で評価し、総合的に「水準にある」、「やや上にある」、「かなり上にある」、「卓越している」と評価する。						
(8)事前事後学習の内容	研究対象に関連する文献や、対象地域の農業・農村に関する文献調査を行うとともに、調査対象地域やそれ以外の地域にも積極的に視察見学へ赴き、情報を収集してください。 事前学習としては、調査・研究に当たり、関連の論文等を適時収集して読むことが求められます。また、調査や実験結果を得たら、事後学習として適時適切にとりまとめを行い、結果の妥当性などを関連論文と比較検討することが求められます。必要な事前・事後の時間外学習を充分に行うことは本科目において必須です。						
(9)テストやレポートの予定	ありません。						
(10)成績評価の方法	90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可、60点未満を不可とします						
(11)質問、相談への対応および連絡先	随時相談に応じます。						
(12)履修上の注意	やむを得ない事情がある場合を除き、出席が2/3に満たない受講者には単位を認定しません 研究テーマの選択にあたっては、自分の興味・関心だけでなく、社会的にどのような位置づけにあるかを認識した上で、対象地域の人々の課題解決を目指すことを前提に選ぶことが期待されます。専攻研究は4年間の学修の集大成と位置づけており、継続した学修の積み重ねが重要になります。 研究手法の中心が、社会調査となる場合は、コミュニケーション能力やレポート作成能力が重要で、定量的実証研究の場合は、その背景にある理論の理解、データの収集、整理能力が重要になります。						
【教科書】	特に指定しません。						
【参考書】	専攻研究に必要な参考文献などを適宜紹介します。						